



2021年5月18日

各 位



会社名 JCRファーマ株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 芦田 信
(東証第1部 コード番号 4552)
問合せ先 上席執行役員経営企画本部担当 本多 裕
(TEL 0797-32-1995)

(訂正)「2021年3月期 決算説明会(決算概要)資料」の一部訂正について

2021年5月17日に開示いたしました、「2021年3月期 決算説明会(決算概要)資料」について一部訂正がありましたのでお知らせいたします。なお、訂正箇所には下線を付して表示しております。訂正後の資料は当該お知らせに添付しております。

記

【訂正箇所】

Financial 4 財務状態

<訂正前>

- ・負債合計 主な増減 +20,032
- ・純資産合計 主な増減 純利益 +5,978
- ・合計 主な増減 +26,009

<訂正後>

- ・負債合計 主な増減 +20,031
- ・純資産合計 主な増減 純利益など +5,977
- ・合計 主な増減 +26,008

Financial 5 キャッシュフロー(連結)

<訂正前>

- ・財務活動によるCF 増減 6,256

<訂正後>

- ・財務活動によるCF 増減 6,255

Financial 13 参考：財務状態(連結)推移 負債純資産

- ・年度表記の修正

Financial 17 参考：研究開発費(負担控除前)と主な研究開発品目の進捗状況

- ・年度表記および研究開発費の修正

以 上

2021年3月期 決算説明会 -決算概要-

2021年5月17日
J C R ファーマ株式会社

通期実績
(2021年3月期)**売上高および営業利益、経常利益、当期純利益は
過去最高の数値・業績を達成**

売上高	: 30,085百万円 (前期比 +21.4%)
営業利益	: 8,269百万円 (前期比 +154.9%)
経常利益	: 8,488百万円 (前期比 +157.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	: 6,892百万円 (前期比 +157.4%)

- 主力製品：グロウジェクト®および腎性貧血治療薬（エポエチンアルファBS、ダルベポエチンアルファBS 合計）はいずれも前期比増。
- 数量ベースでは、グロウジェクト®は9.8%増。
- 販管費に関し、コロナ禍をきっかけとした業務効率の見直しがあった一方、事業拡大期における人件費の増加などの要因により前期比13.1%増となった。研究開発費は効率的な研究開発を行った結果、前期比10.6%減少となった。

(単位：百万円)

連結	2020年3月期 A	2021年3月期		参考
		B	前期比 (B-A)/A	期初予想 (修正前)
売上高	24,781	30,085	21.4%	27,200
売上原価	7,901	7,812	△ 1.1%	6,800
売上総利益	16,880	22,272	31.9%	20,400
販売・一般管理費	7,638	8,643	13.1%	8,000
研究開発費	5,997	5,360	△ 10.6%	6,400
営業利益	3,244	8,269	154.9%	6,000
経常利益	3,293	8,488	157.7%	6,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,678	6,892	157.4%	4,800

対売上高	売上原価率	31.9%	26.0%	△ 5.9%	25.0%
	研究開発費率	24.2%	17.8%	△ 6.4%	23.5%
	営業利益率	13.1%	27.5%	+ 14.4%	22.1%

【ご参考】

共同開発先による負担控除前の 研究開発費	6,582	5,856	△ 11.0%	7,600
-------------------------	-------	--------------	---------	-------

品目	2020年3月期		2021年3月期		
	A	構成比	B	構成比	前期比 (B-A)/A
グロウジェクト®	12,650	51.0%	13,256	44.1%	4.8%
腎性貧血治療薬	5,509	22.2%	7,087	23.6%	28.6%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	4,097	16.5%	3,278	10.9%	△ 20.0%
ダルベポエチン アルファ BS注「JCR」	1,412	5.7%	3,809	12.7%	169.7%
テムセル® HS注	3,126	12.6%	2,441	8.1%	△ 21.9%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	317	1.3%	470	1.6%	48.2%
主力製品合計	21,602	87.2%	23,254	77.3%	7.6%
AZD1222原液	—	—	404	1.3%	—
契約金収入	2,050	8.3%	6,406	21.3%	212.4%
その他	1,125	4.5%	18	0.1%	△ 98.3%
売上高合計	24,781	100.0%	30,085	100.0%	21.4%

(単位：百万円)

	2020年 3月末	2021年 3月末	主な増減		2020年 3月末	2021年 3月末	主な増減
流動資産	28,342	48,545	現預金 +15,287 売掛金 +206 棚卸資産 +4,699	流動負債	10,434	29,028	短期借入金 +7,970 圧縮未決算特別勘定 +3,828
				固定負債	4,761	6,199	長期借入金 +950
固定資産	19,433	25,238	有形固定資産 +2,297 特許権 +2,988	負債合計	15,195	35,227	+20,031
				純資産 合計	32,579	38,557	純利益など +5,977
合計	47,775	73,784	+26,008	合計	47,775	73,784	+26,008

設備投資	5,296	3,965
------	-------	-------

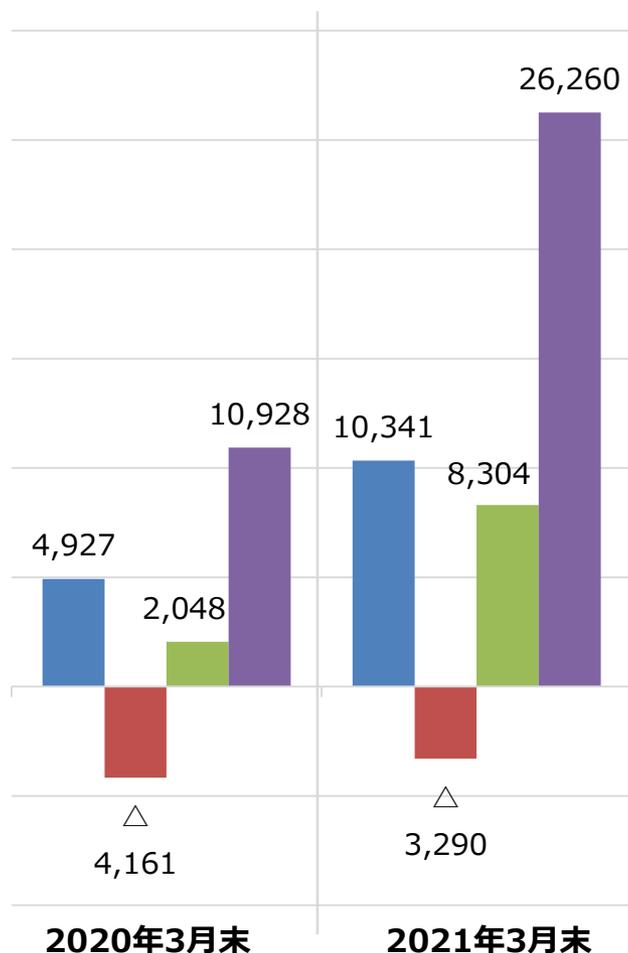
自己資本 比率	66.6%	51.3%
------------	-------	-------

2021年5月18日に主な増減を一部訂正。訂正箇所は下線を付して表示。

キャッシュフロー（連結）

（単位：百万円）

- 営業活動によるCF
- 投資活動によるCF
- 財務活動によるCF
- 期末 現金及び現金同等物



	2020年3月末 A	2021年3月末 B	増減 B - A
税金等調整前純利益	3,422	8,653	5,231
減価償却費	1,434	1,892	458
仕入債務	92	2,253	2,161
棚卸資産	258	△ 4,699	△ 4,957
その他	△ 280	2,241	2,521
営業活動によるCF	4,927	10,341	5,413
有価証券	668	147	△ 521
設備投資	△ 4,838	△ 4,780	58
その他	8	1,342	1,334
投資活動によるCF	△ 4,161	△ 3,290	870
借入金	3,200	9,420	6,220
配当金・自己株式	△ 973	△ 1,069	△ 96
その他	△ 177	△ 46	131
財務活動によるCF	2,048	8,304	6,255
期末現金及び 現金同等物	10,928	26,260	15,332

2021年5月18日に増減を一部訂正。訂正箇所は下線を付して表示。

業績予想 (2022年3月期)

売上高 : 49,000百万円 (前期比 + 62.9%)
営業利益 : 18,700百万円 (前期比 +126.1%)
経常利益 : 18,700百万円 (前期比 +120.3%)
親会社株主に帰属する
当期純利益 : 13,300百万円 (前期比 +92.9%)

- 製品売上に関し、イズカーゴ[®]の販売を開始するほか、グロウジェクト[®]の販売数量の伸長による増収を予想
 - 営業体制の変更 (2020年10月/2021年6月予定) により、各製品において、より効果的・効率的な情報提供活動を展開。
 - 成長ホルモン領域において、電動式デバイスという特性を生かした治療満足度の向上による差別化。
 - イズカーゴ[®] (IZCARGO[®])
日本: 2021年5月薬価基準収載見込み
- またライセンス事業への積極的な取り組み、およびAZD1222原液製造が大きく寄与し、売上高は62.9%増を予想。
- 以上より、販管費および研究開発費の増加を吸収して、営業利益は126.1%の増益を予想。
 - 販管費35.4%増
 - 研究開発費92.2%増

(単位：百万円)

連結	2021年3月期 A	2022年3月期(予) B	増減 B - A	増減率 (B-A)/A
売上高	30,085	49,000	18,915	62.9%
売上原価	7,812	8,300	488	6.2%
売上総利益	22,272	40,700	18,428	82.7%
販売・一般管理費	8,643	11,700	3,057	35.4%
研究開発費	5,360	10,300	4,940	92.2%
営業利益	8,269	18,700	10,431	126.1%
経常利益	8,488	18,700	10,212	120.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,892	13,300	6,408	92.9%

対売上高	売上原価率	26.0%	16.9%	△ 9.10%
	研究開発費率	17.8%	21.0%	3.20%
	営業利益率	27.5%	38.2%	10.70%

(ご参考)

共同開発先による負担控除前の 研究開発費	5,856	11,080	5,223	89.2%
-------------------------	-------	---------------	-------	-------

品目	2021年3月期		2022年3月期 (予)		増減 (B-A)
	A	構成比	B	構成比	
グロウジェクト®	13,256	44.1%	13,900	28.4%	644
腎性貧血治療薬	7,087	23.6%	6,400	13.1%	△ 687
エポエチンアルファ BS注「JCR」	3,278	10.9%	2,700	5.5%	△ 578
ダルベポエチンアルファ BS注「JCR」	3,809	12.7%	3,700	7.6%	△ 109
テムセル® HS注	2,441	8.1%	3,200	6.5%	759
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	470	1.6%	800	1.6%	330
イズカゴ®	0	0.0%	2,800	5.7%	2,800
主力製品合計	23,254	77.3%	27,100	55.3%	3,846
AZD1222原液	404	1.3%	14,700	30.0%	14,296
契約金収入	6,406	21.3%	7,200	14.7%	794
その他	18	0.1%	0	0.0%	△ 18
売上高合計	30,085	100.0%	49,000	100.0%	18,915

注意事項

本資料中の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知ください。

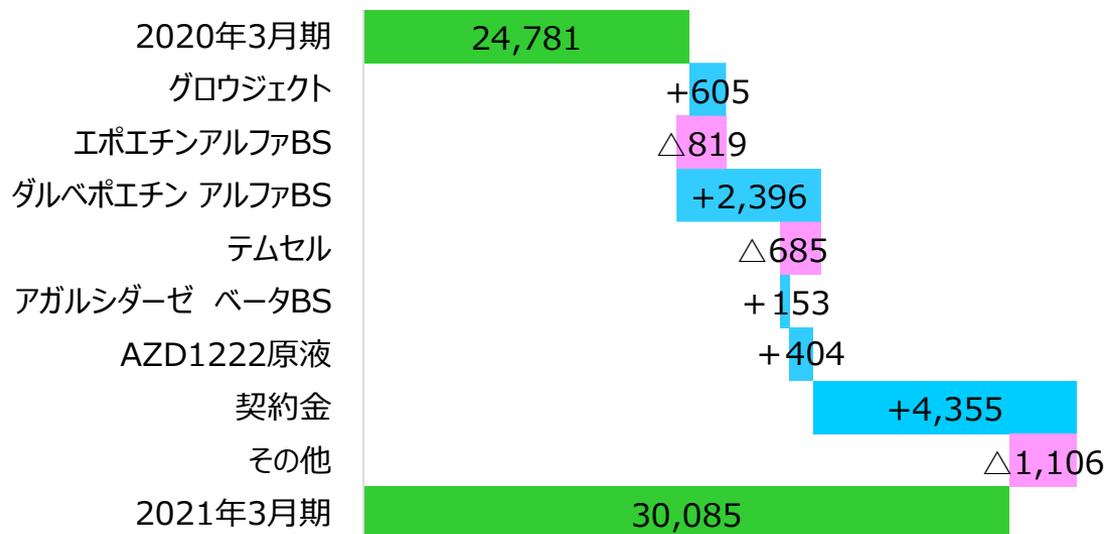
また、本資料は、当社の会社説明・事業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。



– JCR Biotech for a New Tomorrow –

◆ 売上高 30,085百万円 対前期 +5,304百万円

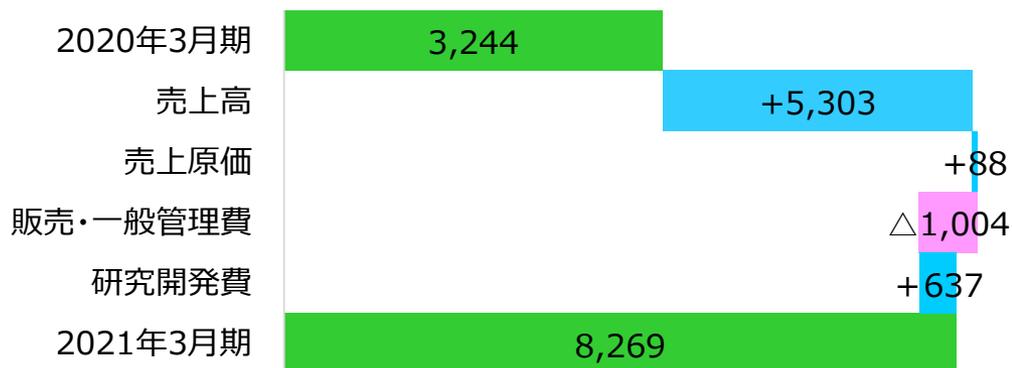
(単位：百万円)



主な増減要因

- ・ 製商品の出荷に関し、新型コロナウイルスによる影響なし
- ・ グロウジェクト
営業体制変更による効率的なプロモーションに加え、電動式デバイスの特徴を活かしたアプリケーションの公開などによる差別化
- ・ テムセル
4月から在庫積み増しのための一部出荷制限を実施。8月の制限解除以降の月売上げは前年比同等・以上となった。現在は安定的な在庫確保と出荷が可能である。

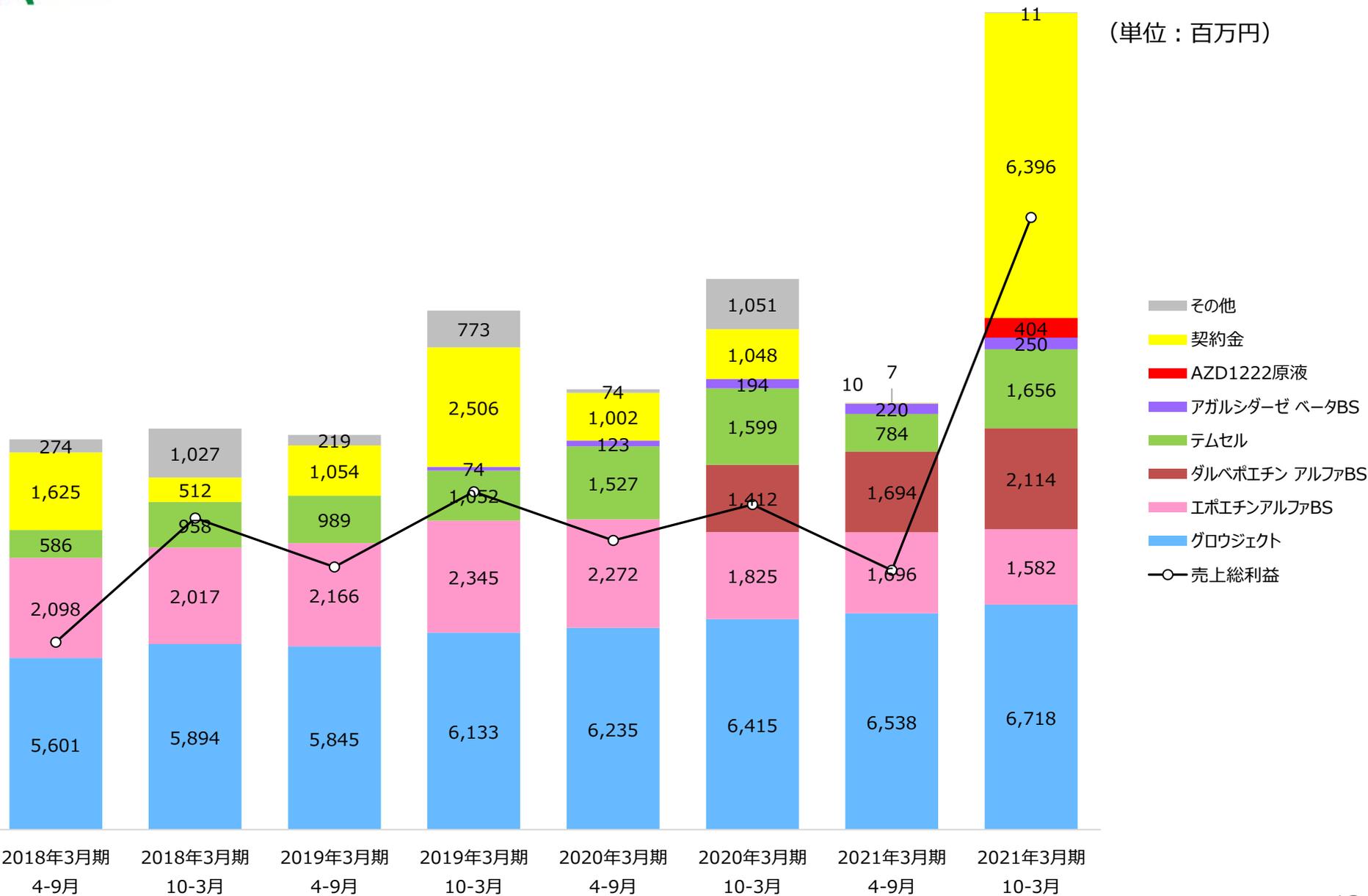
◆ 営業利益 8,269百万円 対前期 +5,025百万円



- ・ 販売・一般管理費
コロナ禍における業務見直しによる経費縮小の一方、事業拡大における人件費の増加
- ・ 研究開発費
効率的な研究開発を行った結果による経費縮小

参考：2020年3月期 累計売上高内訳（連結）推移

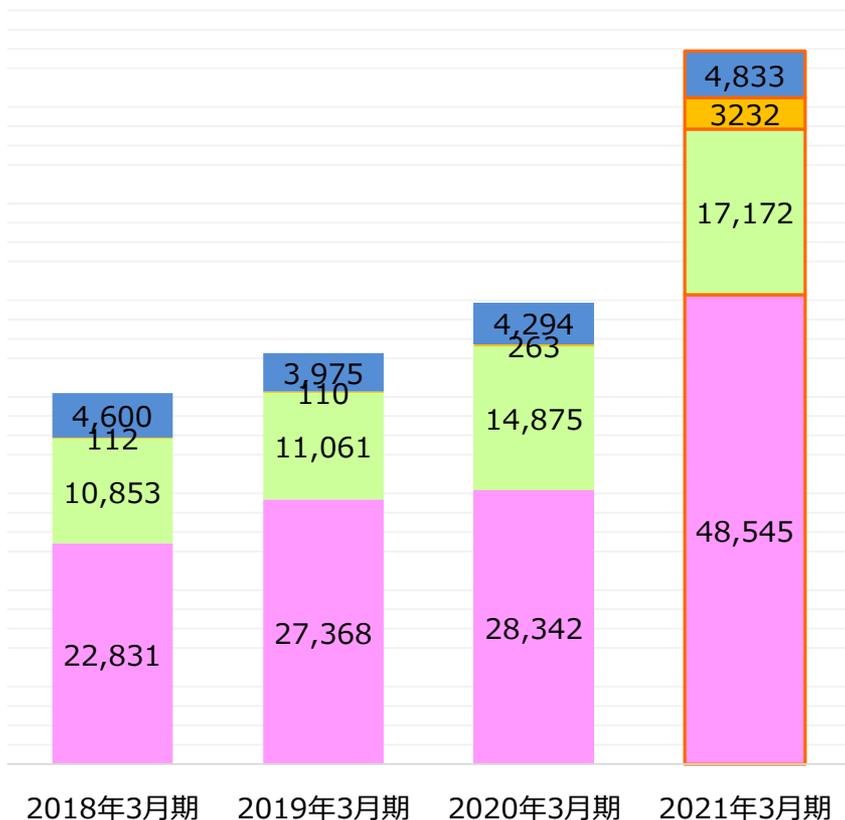
(単位：百万円)



(単位：百万円)

資産

■ 流動資産 ■ 有形固定資産 ■ 無形固定資産 ■ 投資その他の資産

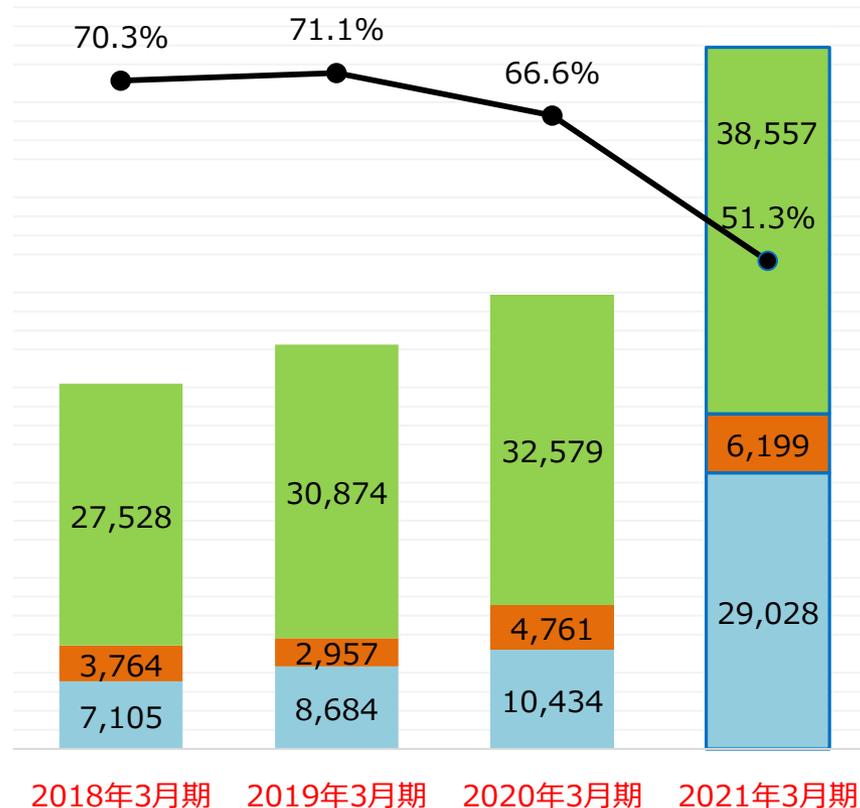


増減要因

- 現金及び預金およびたな卸資産の増加

負債純資産

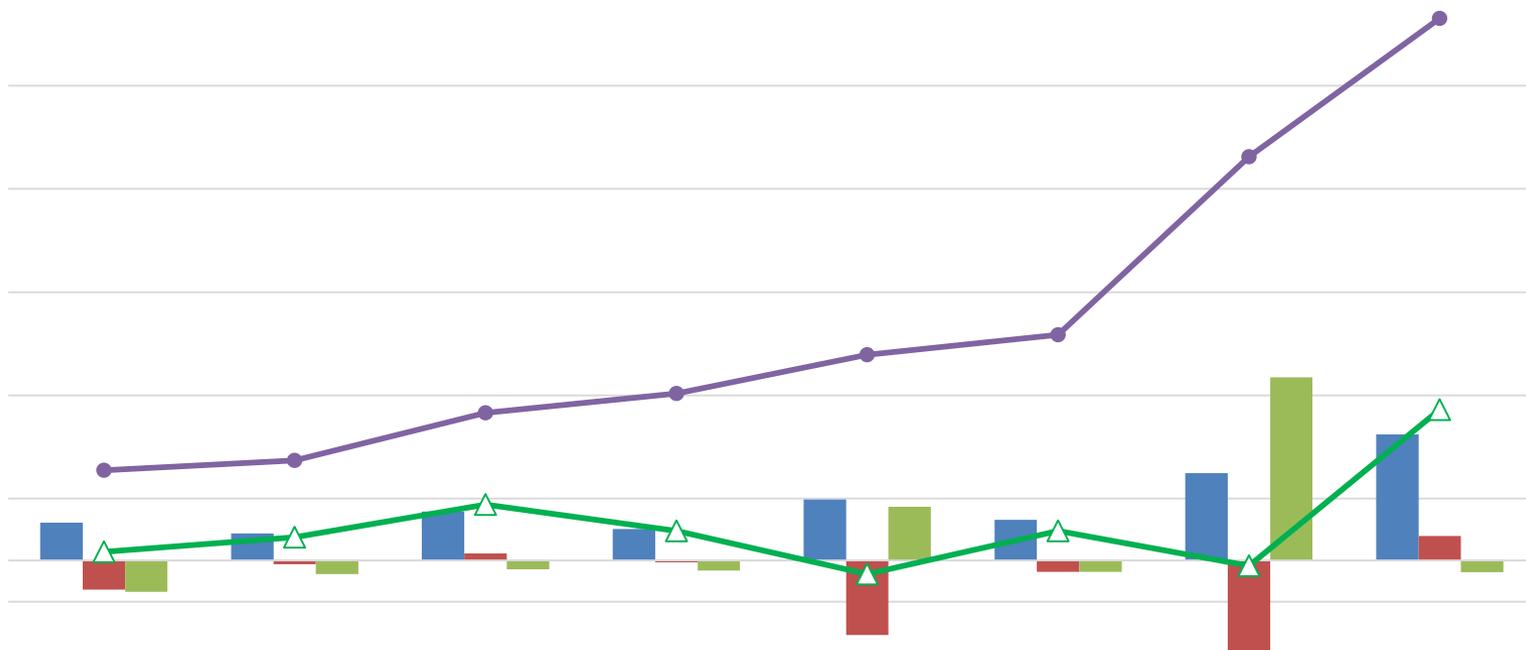
■ 流動負債 ■ 固定負債 ■ 純資産合計 ● 自己資本比率



増減要因

- 借入金の増加による流動負債・固定負債の増加
- 親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による純資産の増加

2021年5月18日に表記を一部訂正。訂正箇所は下線を付して表示。



	2018年3月期 4-9月	2018年3月期 10-3月	2019年3月期 4-9月	2019年3月期 10-3月	2020年3月期 4-9月	2020年3月期 10-3月	2021年3月期 4-9月	2021年3月期 10-3月
■ 営業活動によるCF	1,830	1,303	2,372	1,533	2,949	1,978	4,232	6,109
■ 投資活動によるCF	△ 1,407	△ 180	335	△ 95	△ 3,612	△ 549	△ 4,484	1,193
■ 財務活動によるCF	△ 1,511	△ 664	△ 432	△ 485	2,595	△ 547	8,867	△ 563
● 期末現金及び現金同等物	4,377	4,850	7,158	8,091	9,968	10,928	19,565	26,260
△ FCF	423	1,123	2,707	1,438	△ 663	1,429	△ 251	7,302

増減要因（2021年3月期）

- たな卸資産の増加額46億99百万円があった一方、税金等調整前当期純利益の計上額86億53百万円、減価償却費の計上18億92百万円および前受金の増加額24億93百万円のため、営業活動によるCFは+10,341百万円
- 配当金の支払額10億83百万円があった一方、短期借入金の純増額83億20百万円があったため、財務活動によるCFは+8,304百万円

参考：売上高利益率推移（AZD1222ワクチンを除く）

(単位：百万円)

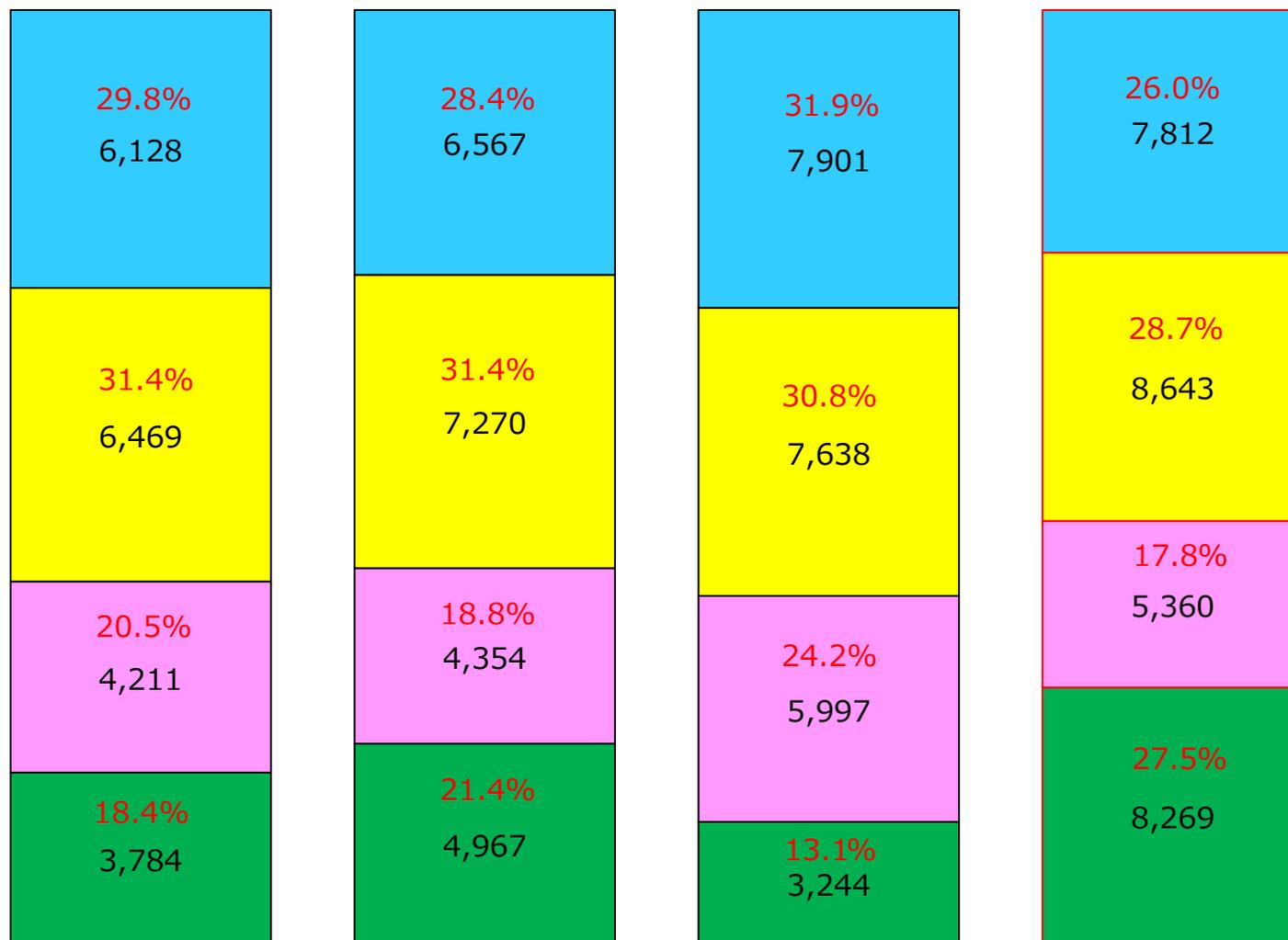
■ 製商品*売上高
 ■ 契約金
 ● 売上総利益率（製商品*）
 ▲ 売上総利益率（契約金含む）

*製商品：グロウジェクト,腎性貧血治療薬,テムセルHS注,アガルシダーゼベータBS注「JCR」,その他



参考：原価・経費の構成比 推移

■ 営業利益
 ■ 研究開発費
 ■ 販売費・一般管理費
 ■ 売上原価



上段数値 (%)
 対売上高比率
 下段数値 (百万円)
 金額

2018年3月期

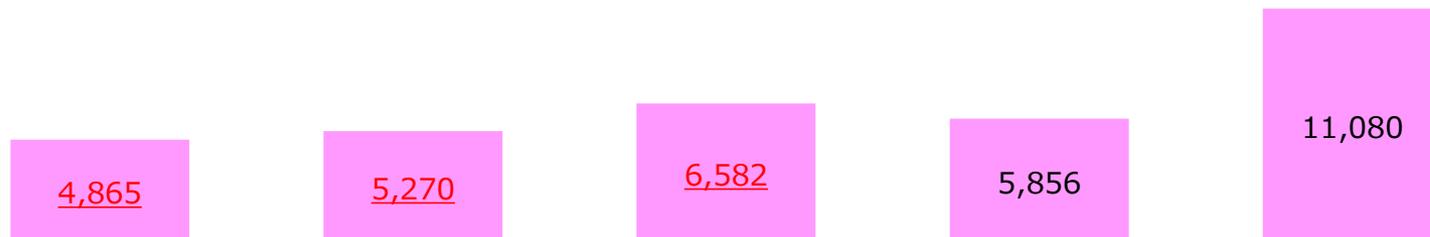
2019年3月期

2020年3月期

2021年3月期

研究開発費（負担控除前）

- 非臨床
- 臨床
- ★ 承認申請
- 承認取得



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (予)
JR-141(日本)				★	○
JR-141(ブラジル)				★	
JR-141(グローバル)					
JR-171(グローバル)					
JR-162					
JR-441					
JR-443					
JR-446					
JR-401X					
JR-142					
JR-031EB				2021.3開発中止	
JR-031HIE					
JTR-161/JR-161					
ダルベポエチン アルファBS		★	○		
アガルシダーゼ ベータBS	★	○			

2021年5月18日に表記を一部訂正。訂正箇所は下線を付して表示。 Financial 17

変革

REVOLUTION
into the Future

重要経営課題

- [1] 希少疾病領域におけるJCRの重要性がさらに高まることを踏まえた **品質保証体制の質・量的拡充**
- [2] 今後数年間の収益基盤強化に向けた **既存製品の持続的成長のための取り組み**
- [3] ライソゾーム病領域の次を見据えた **基礎研究・応用研究の拡充**
- [4] 本格的なグローバル化を見据えた **生産・研究への積極的な設備投資の検討・着手**
- [5] 将来におけるライソゾーム病治療薬の事業価値最大化のための **エビデンス構築を含む製品戦略の立案**
- [6] 本格的なグローバル化以降の業容拡大を見据えた **業務および組織構造改革・人財育成**

対前年比増により、最終年度において下記の売上高・営業利益を達成する。

売上高

320～360億円

営業利益

70～100億円

ガイダンス
2022年度目標

研究開発費

対売上高比率 20%を目安に投資

但し必要であれば対売上高比率20%を超えることも許容する。

安定配当を基本方針とし、期待に応える株主還元と財務の健全性のバランスを重視し、配当性向は30%を目安とする。



	2019年度実績	「変革」1年目 2020年度実績	「変革」2年目 2021年度予想	「変革」最終年度 2022年度目標
売上高	247億円	300億円	490億円	320～360億円
営業利益	32億円	82億円	187億円	70～100億円
研究開発費率	24.2%	17.82%	21.02%	20%目安
配当性向	36.8%	21.5%	14.1%	30%目安

売上高・営業利益

対前年比増により、最終年度（2022年度）において、**売上高320～360億円、営業利益70～100億円** を目標とする。

研究開発費

対売上高比率20% を目安に投資を行う。ただし、必要であれば対売上高比20%を超えることも許容する。

配当性向

安定配当を基本方針とし、期待に応える株主還元と財務の健全性のバランスを重視し、**配当性向は30%** を目安とする。

当社独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」を適用した世界で初めての医薬品



オーファンドラッグ

日本医薬品一般的名称：パピナフスプ アルファ

- 効能・効果
ムコ多糖症II型
- 製造販売承認取得日（日本）
2021年3月23日

点滴静注により、血液脳関門通過を可能にした
世界で初めてのムコ多糖症II型治療酵素製剤

適応症	患者数※1		市場規模※2	
	日本	世界	日本（2019年）	世界（2019年）
ムコ多糖症II型 （ハンター症候群）	約250名	約7,800名	約76億円	約870億円

※1 患者数：厚生労働省班研究等の公開情報を元にJCRで算出

※2 市場規模：既存薬を扱っている会社の公開情報の他、Evaluate Pharma、IQVIAを引用